

1 研究主題等について

(1) 西中校区研究主題

主体的に学びを深める児童・生徒の育成

～「見通し」・「協働」・「振り返り」を効果的に設定した授業づくりを通して～

(2) 研究主題設定の理由

ア 昨年度の取組について

昨年度、本校では「知識・技能の定着を基盤とした、児童の深い学びの実現 ～学習活動や学習の振り返りで自分の考えを表現することを通して～」を研究主題とし、一昨年度の成果や課題、西中校区での共通の取組、さらに「学びの変革」アクション・プランの全県展開を踏まえつつ、国語科を中心に、「見通し」「協働」「振り返り」を授業の軸として、全学級で単元開発を行い、各教科等において基礎的基本的な知識・技能を身に付けさせることに重点を置くとともに、身に付けた知識・技能を効果的に活用して深い学びを実現させることを目指し、組織的かつ継続的に「書くこと」の指導と音読指導に取り組んできた。加えて、カリキュラム・マネジメントの視点から、国語科や総合的な学習の時間、生活科を中心に各教科等とNIEとの関連を図り、児童の語彙力を高め豊かな表現力を身に付けさせ、自分の考えや自分自身のこと、自分の夢を堂々と表現できる児童の育成を目指し研究に取り組んだ。

◎ 成果

- ・ 1月に実施された標準学力調査(CRT)では、基礎的基本的な知識・技能を問う問題において、全校児童の70%以上が全国平均正答率を上回った。また、「書くこと」(作文)の問題においては、本校平均正答率は85.4%であり、全国平均77.5%を7.9pt上回ることができた。児童は、理由を添えながら自分の考えを述べたり、友達と協働的に考えたりそれを基に書いたりすることを通して、一定程度の書く力を付けることができたといえる。
- ・ 毎月の「授業振り返りチェックシート」の結果、「毎時間や単元の振り返りを文章で書かせた」教員は、昨年度平均90%であった。毎時間の学習や単元に振り返りを位置づける授業づくりを意識することで、一定の成果が見られた。
- ・ NIEと国語科や総合的な学習の時間、生活科等とを関連付けた取り組みを、全学年で実施した。また、付箋等を活用し、児童同士の意見を交流させる場の設定を行うことで、校内での、考えや意見の発信の場を充実させることができた。

● 課題

- ・ 3学期初めに行った課題作文の分析の結果、「理由を明確にして、書き表し方を工夫すること」(中学年：67.9%)、「目的や意図に応じて、伝わるように書くこと」(高学年：57.7%)、「事実と感想、意見とを区別して書くこと」(高学年：57.7%)、「資料から引用するなどして、自分の考えが伝わるように工夫して書くこと」(高学年：65.4%)等の指導に課題があることが明らかになった。語彙力にも課題が見られ、表現の広がりが見られない児童が多い。各学年の指導事項を意識した授業づくりの研究・工夫とともに、それぞれの個に応じた手立ての工夫が必要である。
- ・ 各学年において、教科等の単元や毎時間の学習に、視点を明確にした学習の振り返りを確実に位

置くことで、児童に学習成果のメタ認知をさせる。そのことを通して、児童に基礎的基本的な知識・技能を定着させるとともに、さらに深い学びを実現していく必要がある。

- ・ 国語科を中心として身に付けさせた力を、より定着させることを意図して、NIEと各教科等との関連を図り、児童の考えや意見を保護者や地域など身近な校外へ発信することとしたが、十分な取組ができなかった。本校のNIEを充実させるためには、児童の考えや意見の発信は不可欠である。目的意識をもって計画的に取り組んでいく必要がある。

イ 本年度の取組について

海田西中学校校区では、変化の激しいこれからの社会を生き抜くために必要とされる資質・能力を、昨年度から引き続き「主体性（進んで考える力）」「コミュニケーション力（伝える力）」「メタ認知（振り返る力）」とした。これらの資質・能力を児童に身に付けさせるためには、児童に基礎的基本的な知識・技能を付けさせることはもとより、習得した知識・技能を活用しながら、主体的に課題に向き合い、対話的に、より良い解決の方策を探っていく学習を通して、学びを深めさせていくことが大切である。そのためには、「何を学んだか」「何ができるようになったか」「どのように考えたか」等、振り返りを通して、児童に自分自身の学習についてメタ認知させることが必要であり、それによって深い学びの実現にもつながると考える。

本年度は、昨年度の成果と課題、西中校区で定着を目指す資質・能力を踏まえ、各教科等における基礎的基本的な知識・技能を定着させつつ、国語科「情報の扱い方に関する事項」〔知識及び技能〕と「書くこと」〔思考力、判断力、表現力等〕を関連させた指導を中心に取り組んでいく。また、国語科で身に付けた力を活用して、各教科等において、自分の考えや意見を書かせる学習活動を仕組んだり、「見通し」「協働」「振り返り」を効果的に設定したりすることで、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。さらに、「書くこと」や「発信すること」を軸として、NIEと教科等との関連を図り、新聞記事を読むことによる語彙の広がりや、調べ学習による児童の学校図書館活用数の増加も意図して取組を進める。

これらの取組を通して、児童の語彙力を高め、豊かな表現力を身に付けさせるとともに、身の回りや社会の出来事等において、自分の考えを形成し、自信をもって表現したり発信したりすることのできる児童を育成していく。

（３）研究仮説

国語科「情報の扱い方に関する事項」と「書くこと」を関連させた指導を中心に授業改善に取り組み、「見通し」「協働」「振り返り」を効果的に設定すれば、児童が自分の考えを形成し、深い学びの実現を図ることができるだろう。

（４）研究内容

- ① 基礎的基本的な知識・技能を身に付けさせるとともに、西小学びのスタイルの中の「振り返り」を特に重点的に行う。
 - ・ 帯タイムや授業の工夫により、児童に基礎的基本的な知識・技能を身に付けさせる。
 - ・ 学習の「振り返り」を意識した授業づくりをし、単元における学びが、その教科の他の単元学習のほか、他教科等での活用にもつながるような取組を行う。
- ② 文章を書くことを重視した授業づくりを行う。
 - ・ 国語科で、「情報の扱い方に関する事項」と「書くこと」を関連させた指導を行う。また、国語科

「書くこと」において学習したことを使って、他教科の振り返り等において文章を書かせるようにする。

- ・ 定期的に（学期に1回程度）、テーマを決めて児童に作文を書かせる。児童に力を付けるとともに教員の研修に資することができるよう、学年間で交換して添削する。テーマは、カリキュラム・マネジメントの観点から、年間指導計画を参考にして決める。
 - ・ 教科書教材や新聞記事の音読、教材や記事に使われている語句の意味調べ等を通して、言葉に興味をもたせ、児童の語彙力を高めるとともに、表現力を身に付けさせる。
- ③ NIEの質の向上を目指した取組を行う。
- ・ 国語科を中心に、各教科等とNIEとの関連を図り、意見や情報を発信することで、児童に表現力を付けさせる。
 - ・ 情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるような取組を行う。
 - ・ 校内掲示、応募により児童の考えを広め、発信する場を設ける。

2 検証計画について

(1) 検証の視点

- ① 単元における学びについて、学んだことや分かったこと、自分の意見や考えを文章で書かせ振り返りをさせたか。
- ② 国語科の「書くこと」〔思考力、判断力、表現力等〕において、「情報の扱い方に関する事項」〔知識及び技能〕の次の指導事項を意識して、書く力を付けさせるための取組を行うことができたか。

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
情報と情報	ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
情報の整理		イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出展の示し方、辞書や事典の使い方理解し使うこと。	イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

- ③ 新聞記事を引用した単元構成を組むなど、国語科を中心として各教科等とNIEを関連させた授業づくりを行い、自分の考えを形成し、発信させる場の工夫を行ったか。

(2) 検証の指標

- ① 教師の授業の振り返りチェックリスト項目「学んだことや分かったこと、自分の意見や考えを文章で書かせた。」において、肯定的評価の割合が90%以上。
- ② 教師の授業の振り返りチェックリスト項目「『情報の扱い方に関する事項』〔知識及び技能〕の指導事項を意識して、書く力を付けさせるための取組を行った。」において、肯定的評価の割合が100%。
標準学力調査CRT「書くこと」の問題において、全国平均比+7pt以上。
当該学年の指導事項（学習指導要領国語編による）や語彙力（国語科教科書（光村）による）を

採点項目としたテーマ作文（毎学期1回程度）において、正答率75%以上の児童が80%以上。

- ③ 国語科及び総合的な学習の時間や生活科とNIEの関連を図り、各学年1回以上、学習の成果として自分の考えを校外に発信した。

3 校内研修計画について

月	研修【内容】(授業者)
4月	校内研修【方向性の共有】
5月	校内研修【臨時休業中の主体的な学びの在り方】
7月	ブロック研修【第6学年 国語科授業研究】(中川教諭) 全学年課題作文、分析
8月	NIE理論研修 NIE発表会シナリオ作成等
9月	ブロック研修【第4学年 国語科授業研究】(藤井教諭)
10月	ブロック研修【第5学年 社会科授業研究】(大野教諭) ブロック研修【通級指導教室 自立活動授業研究】(砂山教諭) ブロック研修【自閉症・情緒障害特別支援学級 自立活動授業研究】(大橋教諭) ブロック研修【日本語指導教室 国語科授業研究】(杉本教諭)
11月	NIE授業参観, NIE発表会 ブロック研修【第2学年 国語科授業研究】(山縣教諭) ブロック研修【第3学年 外国語活動授業研究】(須山教諭)
12月	全学年課題作文、分析
1月	ブロック研修【第4学年 理科授業研究】(立田教諭)
2月	ブロック研修【第1学年 国語科授業研究】(野崎教諭) ブロック研修【知的障害特別支援学級 国語科授業研究】(原教諭) 全学年課題作文、分析
3月	今年度研究のまとめ

※ 本年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、三校合同公開研究会（海田西中学校）の延期、校内全体研修の縮小を行うものとする。

【ブロック研修での授業研究の持ち方について】

- ・ 低学年ブロック（野崎，山縣，加藤），中学年ブロック（須山，藤井，杉本），高学年ブロック（大野，中川，立田），特別支援ブロック（原，大橋，砂山）で随時，研鑽を積む。
- ・ 全教諭1人1回以上，学習指導案を作成して授業研究を行う。
- ・ 授業研究は，国語科「情報の扱い方に関する事項」と「書くこと」を関連させて行う。ただし，専科や特別支援学級については，研究主題に沿うものであれば教科を問わない。
- ・ 各ブロックで事前に指導案検討を行う。
- ・ 授業研究は，管理職と希望者で授業を参観し，その後，事後研修を行う。
- ・ 授業後には，成果と課題を明確にして記録し，担当者に提出する。